

(様式5)

# 事業実績書

## 1 校内概要及び事業実施対象学年

### 【校内概要】

児童数26名(男17名、女9名)

学級数3(1・2年, 3・4年, 5・6年の複式)

教職員数7名 地域コーディネーター1名

### 【実施対象学年】

全学年(1～6年)

## 2 事業実施期間・・・・・・・・平成22年5月18日～平成23年3月4日

## 3 事業実施内容(環境教育、老人クラブや地域の方々、保護者とのふれあい・交流)

(1)大峰登山(5月18日)

(2)「未来を育てる育樹祭」参加(6月13日)

(3)ソバ畑の石拾い等の整地作業(7月16日)

(4)水生生物調査(5・6年 7月17日)

(5)びん回収(袋綿子ども会 7月24日)

(6)筋立て・ソバの種まき(7月25日)

(7)刈りとり作業(10月1日)

(8)脱穀(10月27日)

(9)袋綿御所跡登山(11月11日)

(10)ソバ打ち(11月16日)

(11)収穫祭(11月17日)

(12)お便り活動(敬老の手紙…9月1日～敬老の日、年賀状…12月1日～15日)

(13)文集づくり(1月19日～3月4日)

## 4 事業の成果と問題点等(事業実践の視点を踏まえて)

### (1)事業の成果

- ① 水生生物調査を行ったことで、身近にある川について児童画興味を持つことができた。また、小本川についての関心や自然を守ろうとする意識も高まった。
- ② 2回の登山や「未来を育てる育樹祭」に参加し、様々な体験をすることを通して、植物について感心を持つとともに自然と一体になることの楽しさや森林を守り育てることの大切さに気づくことができた。
- ③ びん回収を児童と保護者が行うことで、児童と一緒に働くことの楽しさや資源を有効活用する活動の大切さを感じる事ができた。
- ④ 今年度よりソバの栽培活動を老人クラブや地域の方々、保護者、児童、教職員が協同して実施することとした。そのことにより、広く交流を深めることができ児童のコミュニケーション能力を高めることができた。また、ソバ畑の整地からそば打ちまで、懇切丁寧に指導してくれた老人クラブや地域の方々、保護者に対

して、より一層、感謝の気持ちを育てることができた。

- ⑤ 地域の特色を生かした農作業を体験することで、農業のすばらしさや自然の偉大さに気づかせることができた。
- ⑥ 異年齢児童による活動や保護者（親）・地域が一体となった活動を通して、働くことの喜びや協力することの大切さを体験し（共生）、自然環境に目を向け、環境を守っていこうとする心を育むことができた。
- ⑦ 地域に伝わる食文化を体験することで、「ふるさと小川」の良さに気づき、地域を愛する気持ちを育てることができた。
- ⑧ そば畑や学級農園、学校周辺の土質調査は、諸事情により実施できなかった。次年度以降、再検討する必要がある。

## （2）問題点（今後の課題）等

- ① 食に関する学習・活動や育樹祭、水生生物調査など自然環境に関わる活動の取り組みをさらに進めていくこと。
- ② 地域の清掃活動やリサイクル活動など、環境美化教育やエコ教育についての活動をさらに広げていくこと。
- ③ そば栽培活動は、自然が相手の活動なので、天候状況等をよく把握し、地域の
- ④ 先達から指導を仰ぎながら日程等をさらに吟味して実施すること。
- ⑤ そば栽培に適した土作りなど、知識面に関わる活動の充実を図るなど、そば栽培活動を深化・発展させていくこと。
- ⑥ そば畑や学級農園、学校の周りの土質調査に取り組んでいくこと。